

とにかく柏崎を元気にしたい

(株)柏崎インサツ



代表取締役社長 山田大介氏
柏崎市西本町1-6-1
Tel.0257-24-1073

小雪が舞う二月上旬、市内西本町にある株式会社柏崎インサツの代表取締役社長 山田大介さんからお話を伺いました。

山田さんは昭和五十年生まれの四十五歳、お母様の出身地である兵庫県姫路市で誕生され、三歳の時にお父様の実家である柏崎に引っ越してこられました。高校までは柏崎市内の学校に通い、大学進学を機に上京、卒業後も東京でソフトウェアや写真の仕事を経験されています。

その後岩手県出身の奥様とご結婚、二十七歳の時に柏崎にUターンすると同時に同社に入社、三人のお子様にも恵まれ、十年前に三代目の代表取締役社長に就任し現在に至ります。柏崎青年会議所にも十三年間所属され青少年育成事業など様々な地域のための活動をされてきました。

同社は、戦時中廃刊となっていた柏崎日報を復活させるため戦後間もない昭和二十三年に「柏崎印刷」として創業し、新聞発行を中心にチラシやポスター・伝票などの一般印刷物も包括する総合印刷会社としての道を歩んできました。平成四年には今のカタカナの社名に改称されたそうです。

山田さんが社長に就任されてからは、インターネットを使った市外からの受注を開始し、また企画デザイン・提案部門を拡充することで柏崎市の観光に関連するポスターやパンフレットのコンペに参加し新たな受注を獲得されてきました。更には、記念誌の制作や句集などの自費出版にも注力されています。

本業以外のお話を伺うと、七年前よりお父様の影響を受け四十種三百年のイチジク栽培を趣味で行っておりられます。昨年には青空ファームまなぶの品田学氏と出会い、「イチジクで柏崎を元気に！」を合言葉に意気投合し品田氏が柏崎市の地域ブランドづくり支援事業にチャレンジし採択されました。

今後は女性をターゲットに事業化することを目指し、加工品販売や収穫体験などにより、夏だけではない

柏崎観光のファンを増やしていきたいという想いがあるそうです。

また山田さんにはかつて、「アナウンスリーになること」と「起業すること」という二つの夢があり、このイチジク事業が第二創業に繋がれば夢の一つが叶うと考えておられます。また「今後第二創業がどんどん生まれてくれば柏崎の未来は明るくなるのでは」とも語っていただきました。

今もなおコロナ禍が続いており、こんな時だからこそ奮い立って柏崎の子どもたちを元気にするため、市内事業所と一緒に柏崎発のアニメを企画中で、かつては市内有志で特撮映画も作ったことがあるというから驚きです。今後も本業はもちろん、それ以外の部分においても活躍されることに期待が膨らみます。

(現在も昭和九年上棟の石蔵を使用しており「蔵がある印刷会社」は貴重だそうです。)

(十人衆(圓)・忠)取材)

